20大学入試過去問より

１　次の語の意味として最も適当なものをそれぞれ選び、記号を○で囲め。

①　虫が好かない

ア　気味が悪いので嫌う。　　イ　なんとなく嫌う。

ウ　心の底から嫌う。　　　　エ　潔癖症なので嫌う。

②　破天荒

ア　住人もいなくなり、荒れ果てていること。

イ　手がつけられないほど大暴れすること。

ウ　常識にわれない大胆な行動をすること。

エ　今までに誰もしなかったことをすること。

③　角をめて牛を殺す

ア　小さな武器を使って大きな敵に勝つこと。

イ　短所を直そうとして全体をダメにすること。

ウ　追い込まれるまで切り札を取っておくこと。

エ　野望の実現に備えて準備を怠らないこと。

④　らちがあかない

ア　なかなか理解できない。　　イ　どうしても諦められない。

ウ　物事の決着がつかない。　　エ　迷って決心がつかない。

２　次の―線部のカタカナを漢字に直せ。

①　衝撃のカンショウをはかる装置。

②　この条件にガイトウする人はいない。

③　重ね重ねのヒレイをびるばかりだ。

④　あの人は、話を合わせるだけのセッソウのない人だ。

⑤　あくまでもライバルにはケイイを表するべきだ。

⑥　せっかくの休みをムイに過ごしてしまった。

⑦　同じ目標に向け、キを一にして努力する。

⑧　友人とは、個人が自由に選んでつくるチキである。

⑨　まったくタイショウ的な二人だ。

①〔　　　　　〕　②〔　　　　　〕　③〔　　　　　〕

④〔　　　　　〕　⑤〔　　　　　〕　⑥〔　　　　　〕

⑦〔　　　　　〕　⑧〔　　　　　〕　⑨〔　　　　　〕

３　次の①･②の説明にあてはまるものをそれぞれ選び、記号を○で囲め。

①　次の「し」のうち、他と異なるもの。

ア　聞きとりしと　　　　イ　居りがたかりしにや

ウ　さしおき給ひしに　　エ　あやしき鳥かな

②　次の「給へ」のうち、敬語の種類が異なるもの。

ア　「思ひ給へて…」　　イ　聞こえさせ給へれば

ウ　聞こえ給へば　　　エ　「止め聞こえさせ給へ」

４　次の―線部の文法的説明として最も適当なものをそれぞれ選び、記号を○で囲め。

①　その日暮れにければ、…

ア　断定の助動詞「なり」の連用形

イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形

ウ　格助詞　　エ　接続助詞

②　かき鳴らして、歌うたふ声を聞けば、ほそやかなれども、うちゆがみて、…

ア　形容動詞の活用語尾　　イ　伝聞の助動詞

ウ　動詞　　　　　　　　　エ　断定の助動詞

③　宰相、一人南向きにり居たるに、「夜半には成りぬらむ」と思ふ程に、…

ア　過去推量の助動詞　　イ　現在推量の助動詞

ウ　強意の助動詞の終止形＋現在推量の助動詞

エ　形容動詞の未然形活用語尾の一部＋推量の助動詞

④　雪を敷けらむやうなるうへに、…

ア　下二段活用の動詞「敷く」の連用形＋助動詞「らむ」の連体形

イ　下二段活用の動詞「敷く」の未然形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の連体形

ウ　四段活用の動詞「敷く」の已然形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の連体形

エ　四段活用の動詞「敷ける」の未然形＋助動詞「む」の連体形

５　―線部の現代語訳として最も適当なものをそれぞれ選び、記号を○で囲め。

①　ものもつゆまゐらで、うつぶしうつぶしたまへるほどに、

ア　どこにも全く参上しないで

イ　何も差し上げることもなく

ウ　一向にお聞きになることもなく

エ　ものも少しも召し上がらないで

②　この女の親、少将にあるじすべき方のなかりければ、ばかりとどめたりけるに、

ア　主人らしいふるまいもなかったので

イ　お世話することもできなかったので

ウ　ごちそうする手段もなかったので

エ　客間に通す必要もなかったので

③　ここちも悩ましくて、の実など取りへども、喉へも入らで、ただ恋しさはまさり草の、露と消えもやせばやと思へども、死なれもせず、

ア　草の露のように消えてしまいたい

イ　草の露が消えるようにやせるのか

ウ　草の露が消えてしまうのだろうか

エ　草の露のように消えるとするならば

【解答】

１　①イ　②エ　③イ　④ウ

２　①緩衝　②該当　③非礼　④節操　⑤敬意　⑥無為　⑦軌

　　⑧知己　⑨対照

３　①エ　②ア

４　①イ　②ア　③ウ　④ウ

５　①エ　②ウ　③ア